

小さな加工から、航空機関連 など工作機器の製造にも対応



試作可
小ロット
量産
対応

精密加工技術から生まれるエアチャック

業務内容

アルミ切削加工から
飛躍

マイクロメートル単位の加工を得意としており、アルミ切削加工や自動車用エアバッグなどの部品など多様な製品を手がけている。まず、切削加工から同社の歴史はスタートした。大手家電メーカーのビデオ関連部品を受注したことが第1回目の転換期となった。これを受け、昭和55年に岡山工場（岡山県美作市）を新設。さらに切削加工を専門としていたが、昭和58年にエアチャックなどの自社開発製品を製造・販売を始めたのが第2の転機となった。中国・蘇州にも営業拠点を有し、国内外で積極的に自社製品の販売を進めている。

強み 次世代につながる 取り組みを強化

設計から製造まで一貫して行う。精度を維持するため、工夫を凝らした治具などを使用する。創業から培ってきた研磨加工及びアルミ切削加工の技術が基礎としてあり、アルミ切削加工にとどまらず多様な製品づくりを進めている。ここ2年間でマシニングセンターなどの設備投資を積極化した。下ノ原茂光社長は投資の狙いを、「次世代につながる取り組みが必要と判断した」と語る。日本国内のほか中国にも生産拠点が有り、両国とも同レベルの加工ができることも強みだ。

主力製品の 特徴

スピンドルで
航空機関連に参入

主力製品のエアチャックは、加工対象物を保持する工作機器。空気圧で保

持力を調整している。工作物の加工だけでなく、その保持力から搬送用ロボットの部品としても活用できると見ている。新製品のインナーローターチャックは、スピンドル一体型のチャックで使用回転数はチャックの形状で異なるが、最大3000rpm。チャックの中央部分に貫通穴を利用することが出来る。近年力を入れているスピンドルは、航空機関連メーカーにも採用されており、自信を持っている製品のひとつ。翼のリブを加工するラインで使用するという。いずれの製品も自信を持つ研磨技術で動的精度を高めており、高速回転下でより振れを低減した格好となっている。



取引先の要望に応じ、多様な加工に対応

今後の展開

21世紀の技術を拓く

今後も、高付加価値の製品づくりを続けるため最新工学の追究や、妥協を許さない精度への取り組みを加速させる方針だ。現在、開発中なのが「マルチローラーガイド」という製品。ギアやローラーなどを使い、傾斜の位置エネルギーを利用して物体を動かす。下ノ原社長は、「小さな力で物体を動かすことができる」と話す。「既にドイツでは、エアで動く車両がある。マルチローラーガイドは鉄道や自動車などにリンクできるのではないか」と期待を寄せている。

COMPANY PROFILE

仲精機株式会社

大阪25

ISO 9001
ISO 14001

当社の 歴史

昭和27年に創業、精密機構部品の制作を開始。昭和55年に岡山工場、昭和59年に富士工場（山梨県鳴沢村）を設置。平成13年に中国山東省に生産拠点、平成17年に合弁会社を設立しています。



精密加工の専門メーカーとして実績があり、
加工現場で実証済みの自社製品を提供します。

代表取締役 下ノ原 茂光さん

■主な事業内容
金属切削精密部品加工

■主な取引先（納入先）
電機メーカー、機械部品
メーカー、金属加工業、
機械工具商社

住 所／〒570-0011
守口市金田町
1-2-17
TEL／06-6901-1875
FAX／06-6905-8241
創 業／昭和27年3月
設 立／昭和42年6月
資本金／2,000万円
従業員／183名

<http://www.nakaseiki.co.jp>